

福島第一原子力発電所の固体廃棄物保管 に関する中長期計画（案）について

平成26年4月7日
東京電力株式会社



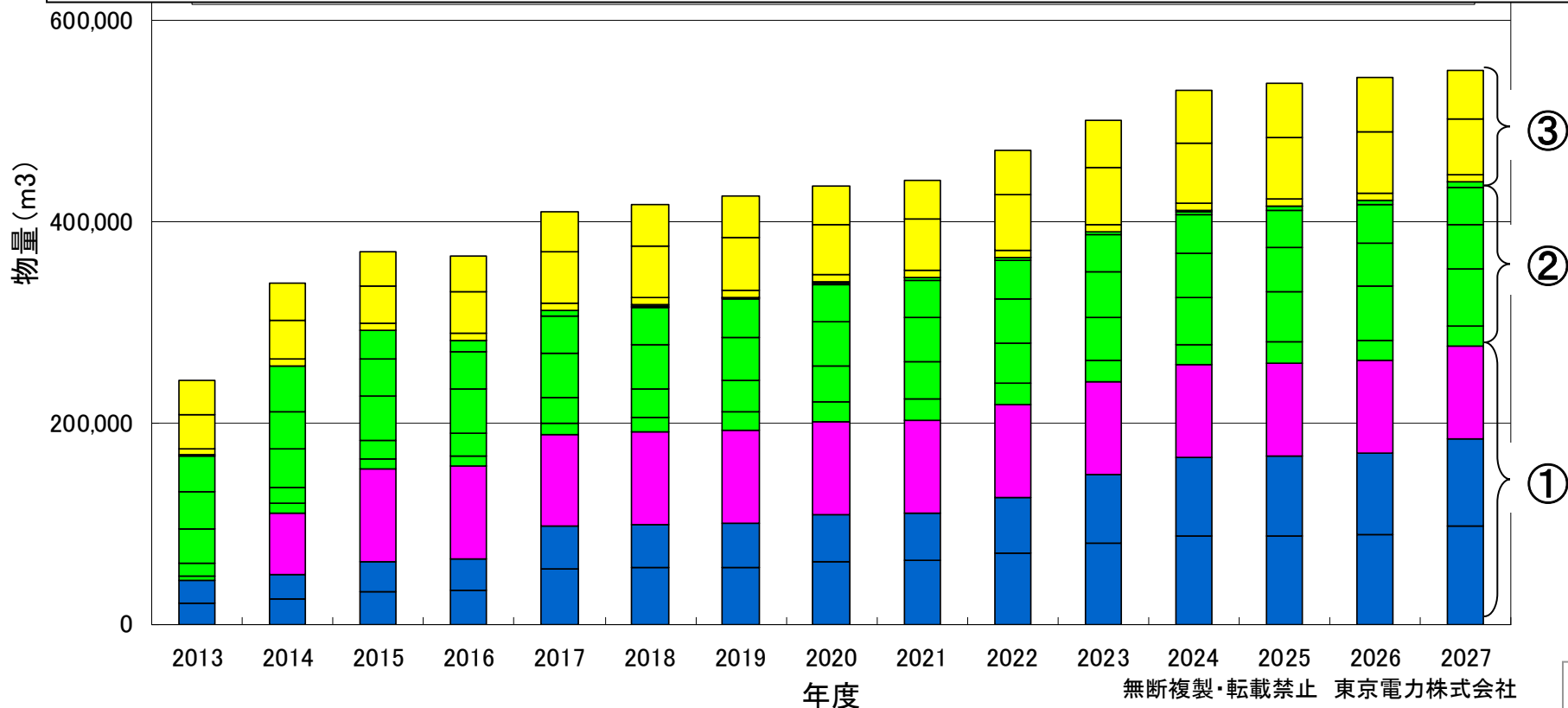
東京電力

1. 瓦礫等発生量の集計

- 屋外保管の瓦礫等やタンクリプレースに伴い発生するタンク片等を工事件名別に集計※
- デブリ取出開始数年後の2027年度までに発生する累計の瓦礫等は、約56万m³

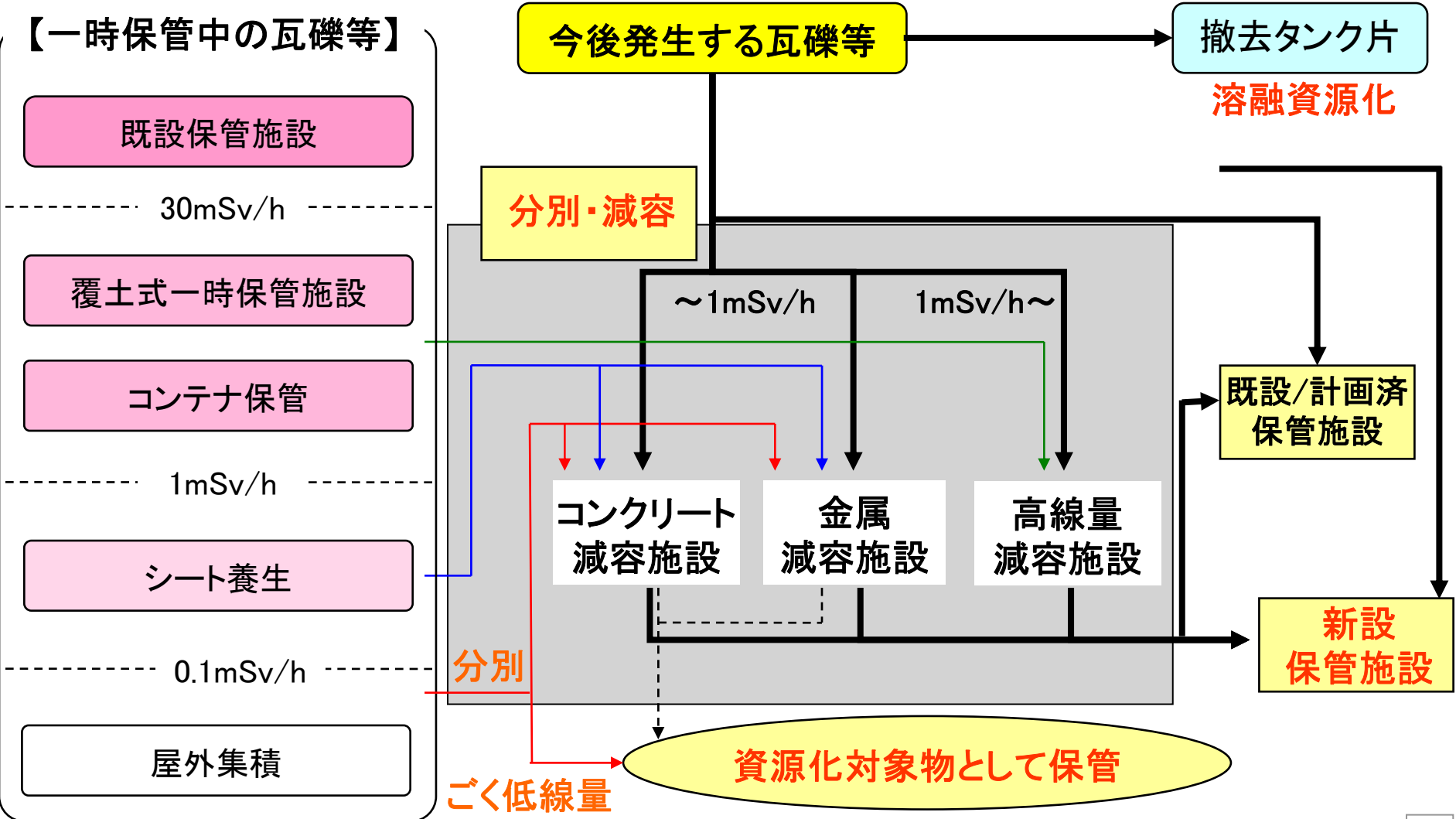
※建屋・タンク等を含む既存の設備は設置したままの前提

- ①資源化対象物 : 表面線量率5 μ Sv/h未満の瓦礫等(青)、撤去タンク片(赤)
- ②減容済みの瓦礫等 : 車両、大型機器類、既設保管施設で保管されている廃棄物等
- ③減容対象物 : 表面線量率5 μ Sv/h以上の瓦礫等



2. 瓦礫等の一時保管～分別・減容処理～保管までのフロー(案)

- 線量別に一時保管している瓦礫等を分別・減容し、既設・新設保管施設に保管
- ごく低線量の金属・コンクリートや撤去タンク片については、資源化対象物として保管



3. 今後必要となる保管容量の評価

2027年度時点における
累計発生量

約56万m³

撤去タンク片を資源化

約9万m³

ごく低線量の金属・コンクリートを資源化

約18万m³

減容済みの瓦礫等

約15万m³

減容対象物量

約14万m³

減容

減容後の物量

約22万m³

既設/計画済保管施設への保管

約6万m³

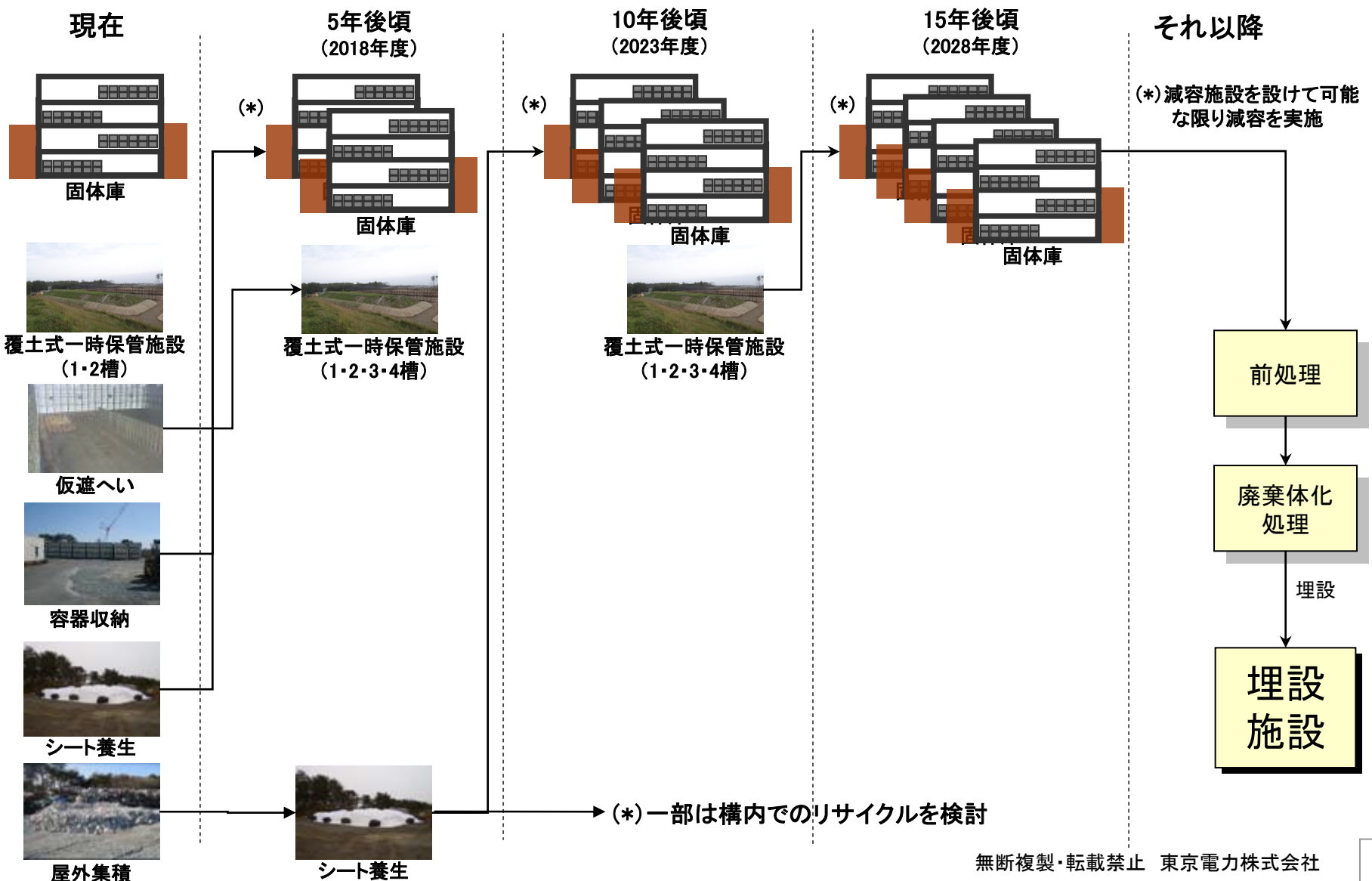
新設保管施設が必要な物量

約16万m³

※25mプール200杯以上に相当

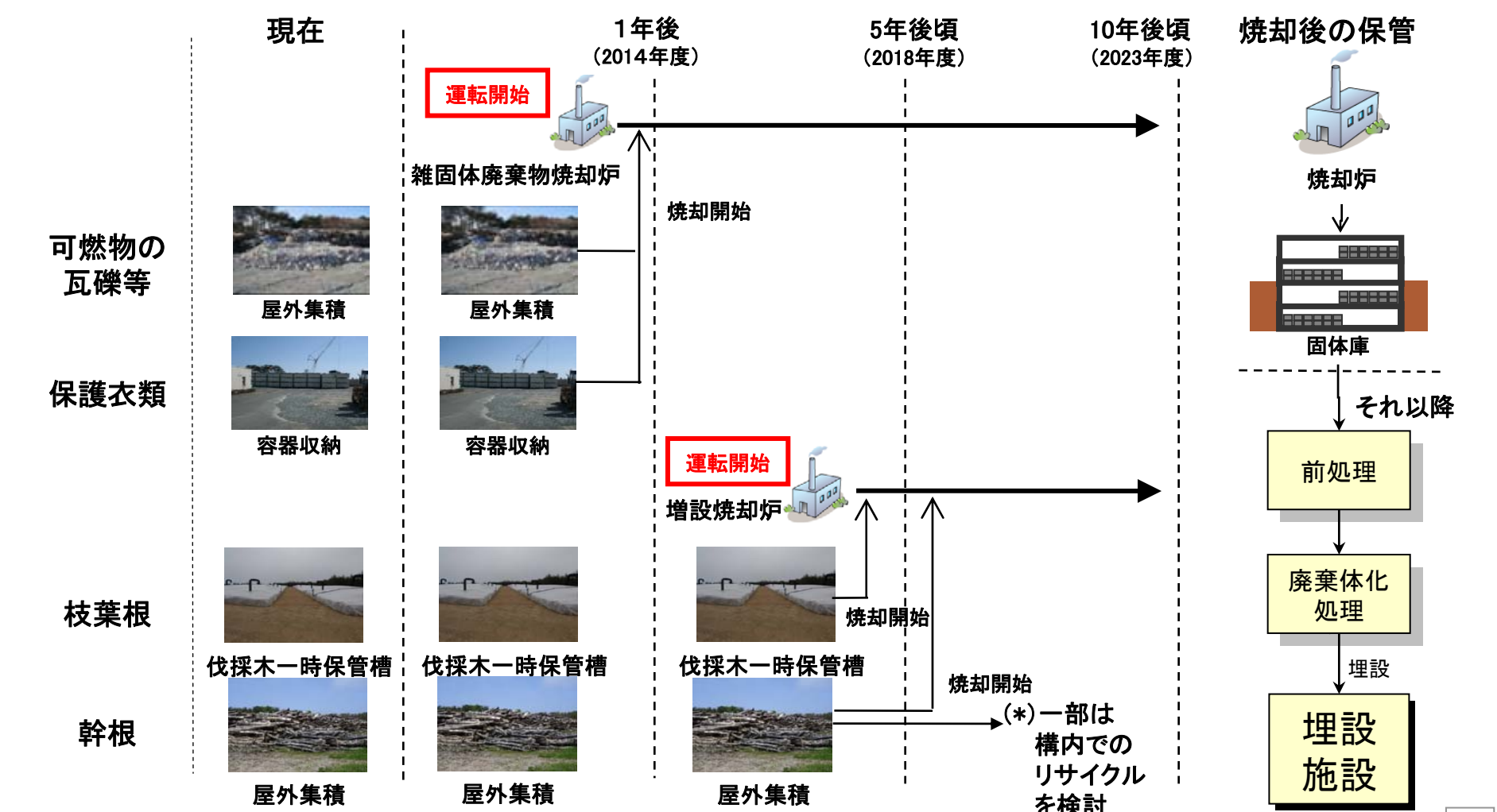
4. 廃棄物保管・処理のイメージ(瓦礫等)

■ 保管形態を現状の屋外集積や仮設保管設備から恒久的な保管施設へ移行していく

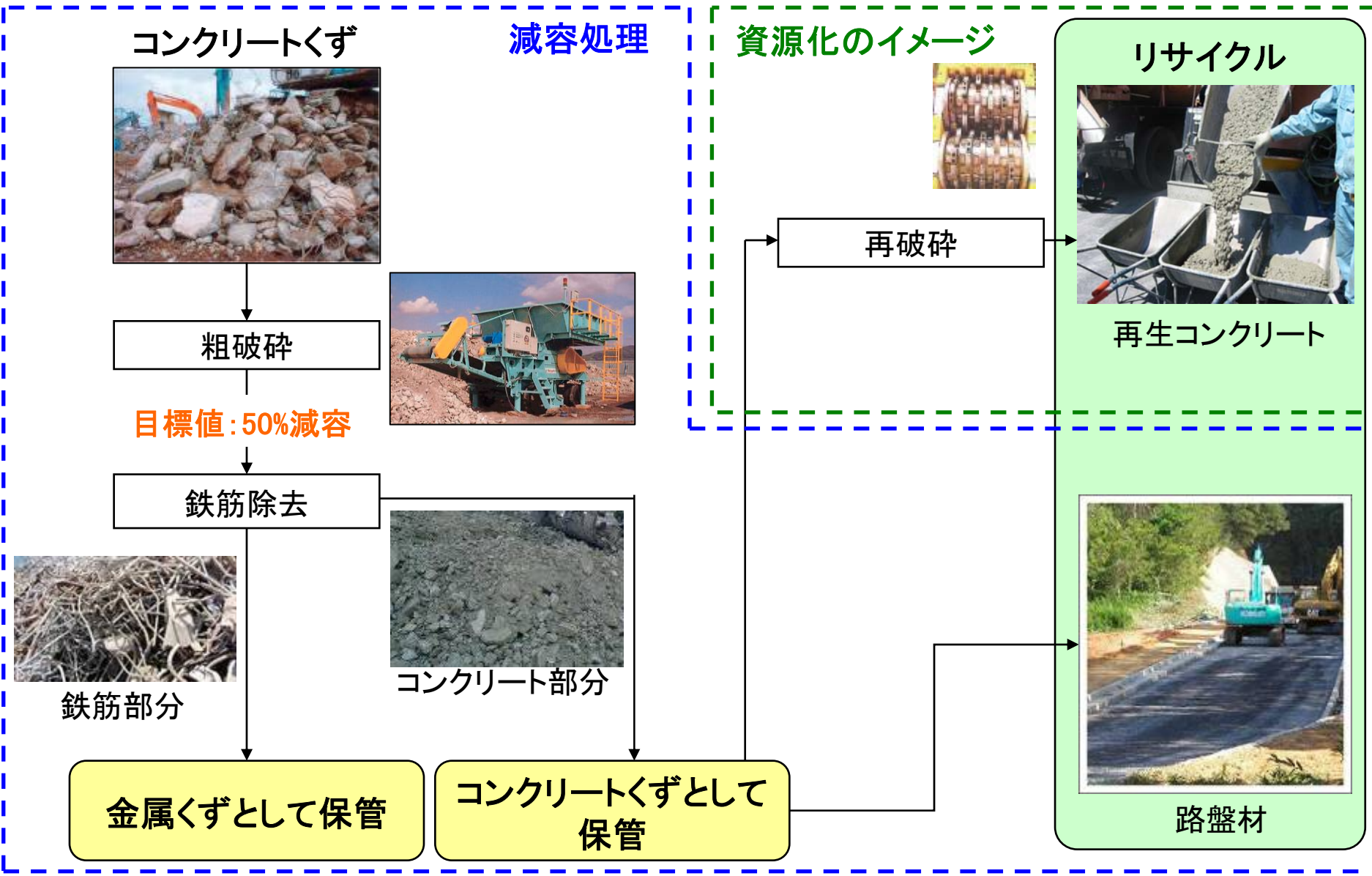


5. 廃棄物保管・処理のイメージ(可燃物・保護衣類・伐採木)

- 伐採木の焼却は焼却炉を追設し、焼却期間を短縮
- 枝葉根は5年後(2018年度中)に焼却処理完了目標
- 幹根については、枝葉根に続いて焼却開始



【参考】 コンクリート減容処理と資源化のイメージ



【参考】 金属減容処理とリサイクルイメージ

減容処理

金属くず



切断

目標値: 50%減容

金属くずとして保管

資源化のイメージ

表面洗浄
ブラスト

鉄系金属

選別(磁選機)

非鉄系金属



溶融



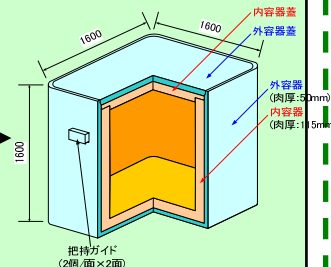
インゴット

インゴットとして保管

リサイクル
(casting products)



遮へい体



貯蔵容器